

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年5月12日
タイトル	「スイゲンゼニタナゴ産卵母貝」調査しました！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年4月2日、福山市環境保全課と学校法人 盈進学園 盈進中学高等学校の環境科学研究部により「スイゲンゼニタナゴ産卵母貝」の調査が水土里ネット福山の用水路で行われたので取材しました。

「スイゲンゼニタナゴ」は、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で国内希少野生動植物種に指定され、許可のないまま「捕獲・飼育・販売・放流」することは厳しく禁止されている貴重な魚です。

福山市では、スイゲンゼニタナゴを守るため「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」が発足し、疏水百選にも選ばれた「芦田川用水」にスイゲンゼニタナゴが生息していることから、水利権者として水土里ネット福山も協議会の一員となっています。

この用水路は「丸川分水」といい、この先で3つの水系に分水する施設で平成7年度に改修した際、スイゲンゼニタナゴを守るため川底に川砂を入れ自然護岸としました。

環境科学研究部顧問の古本哲史先生、環境科学研究部の生徒、福山市環境保全課、芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会の一員であるスイゲンゼニタナゴを守る市民の会、宮島水族館も調査に参加され、スイゲンゼニタナゴの産卵母貝の調査が始まりました。

護岸に植えてある桜も満開の温かな日で、例年は3月下旬で水に入るには寒かったのですが、今年は1週間ほど遅いためか、調査をしていると汗ばむ陽気で、中には半袖の生徒もいました。

生徒たちは、このクラブのユニホームである胴長に着替えて、貝の感触を確かめるため薄手の肘までの長さの手袋をはめ調査しました。



這いつくばって作業をします！



3つの水系へ分水する樋門です

生徒たちは、水門に近い下流から一列に並んで調整池へ入り横一列に並んで一斉に上流に向けて調査を開始です。這いつくばって手で池の底を浚いながら貝を探していきます。上級生と下級生が交互に並び、貝の見つけ方や見つけた時には貝の名前を教えてあげていました。貝を見つけると、大きな声で貝の名前を言うと市民の会メンバーで盈進学園元教諭の大北祐治さんが確認され位置を地図に記載されます。そうして毎年の貝の分布を比較するそうです。今年は、水門に近い下流から中流には貝がほとんどなく生徒たちにも疲労の様子が見えていましたが、上流に行くと貝を見つけることが多くなり、一気に元気になっていました。泥の堆積が多いためか、徐々に上流に分布が変わっているそうです。

上流まで貝を探したら、今度は魚を網ですくって採取しました。残念ながら、スイゲンゼニタナゴは1匹もおらず、母貝となる貝も非常に少なくなりましたが、全体の貝の量は昨年より多く、魚もいろんな種類が確認できました。確認した後は、貝や魚を用水路の上流から放流しました。



産卵母貝となるイシガイやマツカサは少なかったですが、多くの貝を見つけました。
 小さな魚やエビ、ヤゴがいて、普段目にしない水面の下でこんなに多くの生物が棲息していることを知りました。

丸川分水に設置してあり、スイゲンゼニタナゴの保護を呼びかけている立て看板。



これからも水土里ネット福山は、「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」の一員として、ふるさとの生きた財産である「スイゲンゼニタナゴ」が将来にわたってこの芦田川水系に健全かつ安定的に生息できるよう、きれいな農業用水の取水配水に努め、こうした活動をレポートとして広く多くの方々へ発信し、21世紀土地改良区創造運動を展開してまいります。